

世界基準の予防歯科がここにある  
う蝕予防管理方法

セミナーレポート

# CAMBRA™ 講演会



患者さんの予防方法に迷っていませんか？  
リコール患者さんのう蝕を予防できていますか？  
全米65校の歯科大学の内、40校が採用している  
リスク分類に基づくう蝕管理方法。  
18,000人以上を対象とした臨床研究で妥当性は実証済。

CAMBRA™とは、予防歯科の発達するアメリカで生まれたう蝕予防法であり、Caries Management By Risk Assessment ~リスク評価に基づく齲蝕管理 ~を意味しております。  
エビデンスに基づき、過去のう蝕経験や唾液の量等から個々人のう蝕リスクを評価し、リスクを下げる為の処置がCAMBRAではプロトコル化されています。  
この度、CAMBRAの提唱者、フェザーストーン教授をアメリカ、カルフォルニアより招聘、理念と概念を説明した講演を1日に凝縮しご講演頂きました。

## 講師

John D.B. Featherstone Ph.D. M.Sc.

カルフォルニア大学サンフランシスコ校 歯学部長

予防・修復歯科学分野 教授

米国歯科学会 名誉会員

米国歯科医師会 終身名誉会員

この度は日本初講演となるCAMBRA™(キャンブラ)の講演会でしたが、300名を超える参加者にお越しいただき、昨今の予防歯科に関する関心の高さを実感致しました。

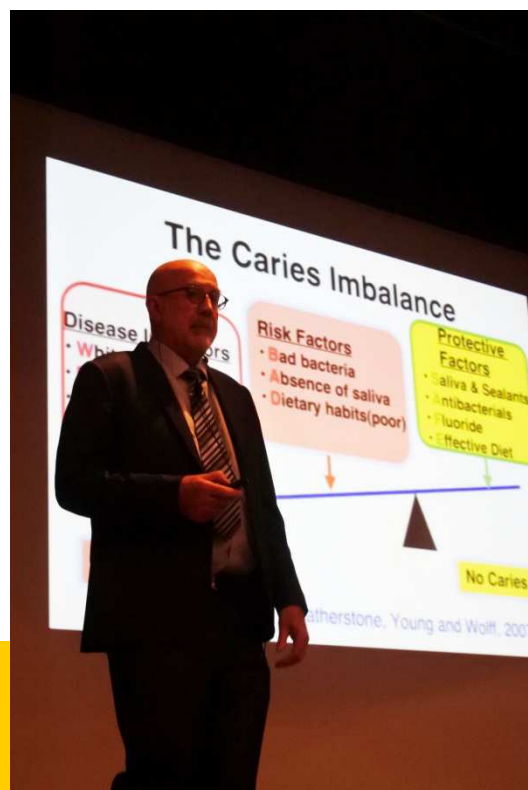
満席のためキャンセル待ちとなり、ご参加いただけなかった方々には、大変申し訳ございませんでした。

5時間の同時通訳という長丁場でしたが、講演会後のアンケートにおきましては

約80%の参加者に『非常に満足』~『満足』

約70%の参加者に『CAMBRAを自医院に取り入れたい』

とのご回答をいただきました。



フェザーストーン教授「指を切っても怪我をしても指の切断はそうそう行わない。最後の選択肢だ。でも歯科で行う切削はどうだろうか。虫歯がある。その時、第一選択に切削があるとするならばそれは間違いである。」

CAMBRA™(キャンブラ)はCDA(California歯科医師会)とUCSF(California大学San Francisco校)との共同により開発された将来のう蝕発生リスクの分類とリスク別推奨処置をプロトコル化した、う蝕管理法です。

2003年に開発されて以降10年以上続き、現在では18,000人以上を対象とした5年間の臨床データを元に基準の妥当性(エビデンス)が担保されておりますが、日本での知名度は殆ど有りません。アメリカでは、歯科大学65校の内、40校が教育プログラムとして導入済です。

午前中の講義は基礎的な内容となりました

歯質やホワイトスポット、その再石灰化の課程を電子顕微鏡による拡大図で確認し、歯質の保存学・修復学をおさらいしました。

午後の講義では、実際にCAMBRA™の内容に触れ、実症例を挙げつつ個々のリスク評価について質問形式も取り入れながらの進行となりました。

CAMBRA™ではカリエスリスクアセスメント フォームの、YESに○をつけ、その各因子の数により、個々人のカリエスリスクレベルを低リスク、中等度のリスク、高リスク、極度のリスクと決定。その各結果により処方するホームケア方法や処置を変えて行きます。

講義終了後の質疑応答へも、たくさんのご質問をいただきました。お時間の都合上、全てのご回答に至らず大変申し訳ございませんでした。

**今後もCAMBRA™に関する講演会等を  
引き続き開催して参りますので、乞う  
ご期待下さい。**

**ニュースは当特設サイトにて、随時  
ご案内予定です。**

